

平成 22 年 10 月吉日

各 位

財団法人 石橋湛山記念財団

理事長 石 橋 省 三

平成 22 年度・第 3 回「石橋湛山新人賞」受賞候補作品推薦のお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます

皆様方より多大なご支援を賜っております「石橋湛山賞」は、本年で創設以来 30 年になります。経済、政治、社会など種々の分野で指導的な役割を果たされている方々に対する賞として論壇に定着し、各方面より多くの関心をいただいております。

一方で、昭和 55 年に若手研究者の表彰を目指して発足した石橋湛山賞ですが、時の経過と共に、近年は多くの実績を積まれた方々が受賞されるようになっております。このため、石橋湛山賞発足時の精神を継承すべく、昨年、新たに「石橋湛山新人賞」を創設いたしました。この賞は若手研究者（主に大学院生）による石橋湛山の思想（自由主義・民主主義・国際平和主義）に直接間接的に通じる優秀な研究を表彰することにより、当該分野の人材の育成と研究の深化を支援することを目的としております。昨年度の第 2 回新人賞は、慶應義塾大学大学院水口由美氏著「社会的入院に関する総合的レビューとその要因モデルの構築」に授賞いたしました。この授賞により、研究者の方々のますますのご活躍を祈念することを狙っております。

つきましては、ご多用中まことに恐縮に存じますが、平成 22 年度・第 3 回授賞作品の候補として、過去 1 年間（平成 21 年 10 月より 22 年 9 月）の間でお心に留まりました論文、評論、随想などをご推薦いただきたくお願い申し上げます。ご推薦は別紙の要項によっていただきたく存じます。皆様によりご推薦いただいた候補作品は、石橋湛山新人賞選考委員会（脚注参照）において慎重に審査の上、原則として本賞 1 編、佳作 2 編を選定し、来年 2 月下旬頃に発表の予定でございます。

なお、本状は有力大学の総長、学長、学部長、研究科長および有力学会の責任者の皆様に送らせていただいております。御機関におきまして、本賞への推薦にあたりどなたか他に適任の方がおられましたら、その方に本状をお回しいただければ甚大に存じます。皆様方のご支援と優れた候補作品のご推薦が、「石橋湛山新人賞」の今後の成長にとって不可欠でございます。是非とも積極的にご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

敬具

（注）石橋湛山賞の選考委員会は、東洋経済新報社の外に新聞社・金融機関・中央官庁の中堅社員・官僚、最近の石橋湛山賞の受賞者および当財団理事長により構成されます。

第3回石橋湛山新人賞候補作品推薦要項

1. 推薦作品について：昨平成21年10月より本平成22年9月までの間に発表された論文や評論などの言論作品をご推薦下さい。大学・大学院・研究所などが発行している公式な刊行物（論文集など）に掲載された作品に限定いたします。政治・経済・外交・文化などの領域において自由主義・民主主義・平和主義の考え方へ沿った優れた作品で、石橋湛山新人賞に相応しいとお考えのものをお願いいたします。
2. ご留意いただきたい点：
 - ① 広く一般の読者にも理解し・読み易い論文であること、
 - ② 新たな視点があり、現下の政治・経済・社会（教育・文化を含む）などの課題に真正面から取り組み、一定程度啓蒙的であること、
 - ③ よく考えられた論文であること、
 - ④ 論理構成がしっかりとれていること、
 - ⑤ 執筆者（大学院生）の極めて特定な領域に限られた研究書または学者間の論争に類するものは避けられたいこと、など。
3. ご回答は、同封の用紙にてお願ひいたします。書き切れない場合は、別紙をご利用いただきても結構です。また、メールやファックスによるご回答も受け付けております。
4. ご回答は、平成22年11月26日（金曜日）までに頂戴いたしたく存じます。

今回、ご推薦をお願いいたしましたのは、国公私立大学の学長・研究科長・学部長、人文社会科学系の学会の幹部、有力研究所の研究所長もしくはそれに準ずる方々でございます。

以上

財団法人 石橋湛山記念財団事務局

〒103-8345 東京都中央区日本橋本石町1-2-1 東洋経済ビル8階

電話・ファックス 03-3270-8070

Eメール zai.tanzanzaidan@juno.ocn.ne.jp

『石橋湛山新人賞』歴代授賞作品及び受賞者名

- 第 1 回 (平成20年) 伊藤真利子氏 (青山学院大学大学院総合文化政策学研究科博士課程)
「郵便貯金の民営化と金融市場 - 金融変革期における郵便貯金」
(青山学院大学社会科学紀要)
- 第 2 回 (平成21年) 水口由美氏 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程)
「社会的入院に関する総合的レビューとその要因モデルの構築」
(慶應義塾大学大学院 KEIO SFC JOURNAL)
- 第 3 回 (平成22年)
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回

注：肩書は受賞当時、() は掲載論文集名